

F 学童保育クラブの実態・課題

■ 施設概要

学童保育クラブは、保護者が日中不在になる家庭の児童を預かり、適切な遊びと生活の場を提供して、その健全な育成を図るところです。小学校1年生から3年生まで（障がいのある児童は6年生まで）で市内に在住している児童が対象となっています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
玉川学園 南大谷	○	ころころ学童保育クラブ	87	2002	ころころ児童館 さくらんぼホール
町田中心		中央学童保育クラブ	305	1998	
町田中心		学童21保育クラブ	145	2000	
町田中心		森野学童保育クラブ	262	2001	
玉川学園 南大谷		高ヶ坂学童保育クラブ	137	1992	
玉川学園 南大谷		南大谷学童保育クラブ	245	2012	
本町田 薬師池		藤の台学童保育クラブ	105	1989	
本町田 薬師池		本町田学童保育クラブ	223	2002	
成瀬		そよかぜ学童保育クラブ	232	2011	
成瀬		金森学童保育クラブ	231	2013	
南		どろん子学童保育クラブ	248	2004	
南		鶴間ひまわり学童保育クラブ	300	2003	
成瀬		なんなる学童保育クラブ	260	2002	
南		南つくし野学童保育クラブ	227	2006	
北部の丘 陵		野津田学童保育クラブ	371	2014	
鶴川		鶴川第二学童保育クラブ	232	2006	
鶴川		鶴川学童保育クラブ	141	1991	
鶴川		鶴川第四学童保育クラブ	264	2002	
鶴川		金井学童保育クラブ	238	2007	
鶴川		大蔵学童保育クラブ	275	1999	
鶴川		みわっこ学童保育クラブ	298	2017	
北部の丘 陵		小山田学童保育クラブ	199	2005	
北部の丘 陵	○	桜の森学童保育クラブ		2017	小山田南小 学校
忠生		木曾学童保育クラブ	283	2010	
忠生		木曾境川学童保育クラブ	210	2001	
本町田 薬師池		七国山学童保育クラブ	293	2003	
忠生		山崎学童保育クラブ	240	2014	
小山 小山ヶ丘		小山学童保育クラブ	355	2007	

小山 小山ヶ丘		小山ヶ丘学童保育クラブ	403	2004	
成瀬		高ヶ坂けやき学童保育クラブ	237	2008	
南		つくし野学童保育クラブ	262	2008	
忠生		函師学童保育クラブ	288	2008	
小山 小山ヶ丘		小山中央学童保育クラブ	498	2009	
鶴川	○	つるっこ学童保育クラブ		2004	こどもセンターつるっこ
相原	○	相原たけの子学童保育クラブ		2008	こどもセンターぱお
本町田 薬師池	○	竹ん子学童保育クラブ		1965	町田第三小学校
本町田 薬師池	○	藤の台ポケット組学童保育クラブ		1972	藤の台小学校
南	○	南第一さくら学童保育クラブ		1965	南第一小学校
南	○	わんぱく学童保育クラブ		1974	小川小学校
成瀬	○	すまいる学童保育クラブ		1974	成瀬台小学校
成瀬	○	成瀬中央あおぞら学童保育クラブ		1979	成瀬中央小学校
忠生	○	なかよし学童保育クラブ		1966	忠生小学校
相原	○	大戸のびっ子学童保育クラブ		1983	武蔵岡中学校

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 1 小学校区に 1 学童保育クラブを配置しており、児童の登降所の安全を確保するため、小学校内・小学校隣接地への移設を完了した。
- 〔建物〕 ・ 今後は一斉に老朽化が進む。
- 〔機能〕 ・ 児童数の増加に伴う、育成スペースの狭あい化が進む。
- 〔利用〕 ・ 年々入会児童数が増加している。
- 〔運営〕 ・ 43 施設中 39 施設が指定管理により運営されている。
- 〔コスト〕 ・ 利用者が負担する育成料が行政費用の 2 割未満となっている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による設置義務はない。
- ・ 児童の健全な育成に資するため、地域の実情に応じた放課後児童健全育成事業を行うとともに、利用の促進に努めなければならないと法律に定められている。

設置目的との整合性

- ・ 児童の健全な育成、保護者の働く環境づくりという点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 入会児童数は毎年増加しており、狭あい化が進む学童保育クラブがある。

施設の代替性

- ・ 放課後子ども教室、民間の類似施設、保育園・幼稚園で行っている学童一時預かり等があるが、利用料金が高い、利用定員が少ない等から代替性が低い。

〔現状・課題のまとめ〕

入会児童数が毎年増加することで施設が狭あい化し、保育スペースの拡大が必要な学童保育クラブが複数あり、全体的にも施設の老朽化が進行しています。

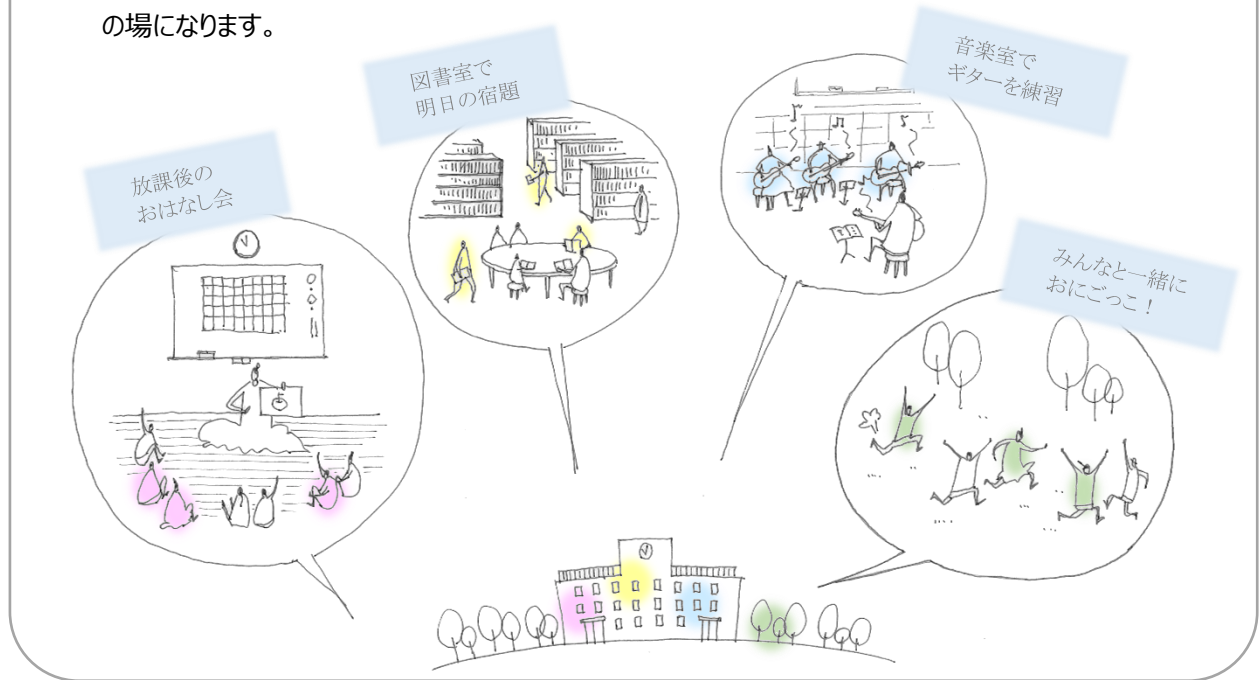
管理責任や運営責任を明確化にしつつ、教育活動で使用しない教室の活用や、放課後の教室等の未利用時間の活用を促進し、保育スペースの確保や、老朽化に対応していくことが課題です。

▶ F 学童保育クラブの今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆≡

- 学校が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する学童保育クラブが、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、より安全・安心に加えて魅力的で利便性の高い児童の育成の場になります。



■ 今後の方向性

複・多

活用

地域の拠点となる学校に複合化・多機能化することで、建物の総量圧縮を図る他、学校施設の活用により多様な活動が可能となり、魅力が向上する。

- ✓ 保育スペースが不足する学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。

～こんな取り組みも始まっています～

埼玉県吉川市 美南学童保育クラブ

学童保育室をはじめ、高齢者ふれあい施設、公民館、子育てセンターなど、乳幼児から高齢者まで、様々な年代が利用する施設を、地域のニーズを踏まえ、小学校に複合化しています。小学校の特別教室や体育館は地域開放することを前提に整備しています。



子育て世代・共働き世代が増加する地域の実情に応じた施設を整備
(左：子育て支援センター、右：学童保育室)



デイサービスでは小学校の給食を提供 学校教育の活動時間外に体育館を地域に開放

<立面図>

